

授業科目名	情報処理基礎	担当教官	松田 芳健
対象学生	1学年	学期及び曜日・時限	前期・火曜 限
単 位	2単位	選 択	教室名
回	講義題目	内 容	
1		概要説明、情報技術の役割 歴史、用途。	
2		コンピュータの基本機能	
3		ハードウェアの構成	
4		ソフトウェアの構成	
5		ユーザ・インターフェース	
6		コンピュータ処理の基本動作原理	
7		デジタル表現、デジタル化の方法	
8		ネットワークの利用	
9		ネットワークの仕組み	
10		インターネット	
11		プログラミング	
12		コンピュータによる制御	
13		情報倫理と情報文化	
14		予備日	
15		予備日	
テキスト、教材、参考書		授業において指示する。	

授業科目名	情報処理基礎演習	担当教官	松田 芳健
対象学生	1学年	学期及び曜日・時限	後期・火曜 限
単 位	1単位	選 択	教室名
回	講義題目	内 容	
1		概要説明、基本操作方法	
2		文字処理、文字の入力	
3		文章の入力	
4		文書処理1. ワープロによる文書作成	
5		文書処理2. 編集・校正、印刷	
6		文書処理3. 図表の作成、挿入	
7		ネットワークの利用. インターネットの情報閲覧	
8		ネットワークの利用2. メールの利用	
9		数値処理1. 表計算ソフトによるデータ入力	
10		表計算ソフトによる計算の方法	
11		関数の利用1. 算術関数	
12		関数の利用2. 論理関数、統計関数	
13		マクロを使った制御	
14		予備日	
15		予備日	
テキスト、教材、参考書		授業時間に指示する。	

授 業 科 目 名	生物科学	担 当 教 員	柴田 雅祥
対 象 学 生	1学年	学期及び曜日・時限	前期・水曜 限
単 位	2単位	選 択	教室名
回	講 義 題 目	内 容	
1		細胞とその構成要素	
2		遺伝の基本的メカニズム	
3		遺伝子の働き(1) DNA の構造と複製、タンパク質の構造	
4		遺伝子の働き(2) DNA とタンパク質の合成	
5		発生と細胞分化(1)	
6		発生と細胞分化(2)	
7		生体内の化学反応	
8		免疫のしくみと免疫反応	
9		遺伝子と生命現象(1) エイズ	
10		遺伝子と生命現象(2) がん	
11		遺伝子と生命現象(3) 神経難病	
12		現在の Topic (1)	
13		現在の Topic (2)	
14		現在の Topic (3)	
15		試験	
テキスト、教材、参考書		随時プリント等配布する。	

授業科目名	生化学	担当教官	澤田 只夫
対象学生	1学年	学期及び曜日・時限	後期・木曜 限
単 位	2単位	選 択	教室名
回	講義題目	内 容	
1	1) 序 論	1. 生化学とは、 2. 生体分子 元素間の結合 分子量や濃度の表し方 生体の構成物質	
2	2) 細胞の基本構造 と機能	3. 細胞の基礎 4. 生体膜 5. 細胞骨格 6. 細胞小器官	
3	3) 生体成分の構造 と機能	7. 糖質	
4		8. 脂質	
5		9. アミノ酸と蛋白質 10. 核酸 11. ビタミン	
6	4) 代 謝	12. 酵素と代謝 13. エネルギー代謝とその調節	
7		14. 糖質の代謝	
8		15. 脂質の代謝	
9		16. アミノ酸と蛋白質の代謝 17. 代謝のまとめ	
10		18. ヌクレオチドの代謝 19. ポルフィリンと胆汁色素の代謝 20. 水と無機質の代謝 21. 酸塩基平衡	
11	5) 核酸と蛋白質の 生合成	22. 核酸の構造と機能 23. DNA の複製 24. DNA の修復 25. RNA の合成 26. 蛋白質の生合成	
12		27. 遺伝の生化学	
13	6) がんの生化学	28. 細胞周期と増殖 29. アポトーシス 30. 発がんの分子機構とがん遺伝子	
14		総まとめ	
15		学期末試験	
テキスト、教材、参考書		教科書:コンパクト生化学(大久保岩男/賀佐伸省著)南江堂 プリント	

授業科目名	医用物理学	担当教官	苗村 潔
対象学生	1学年	学期及び曜日・時限	前期・火曜 限
単 位	2単位	選 択	教室名
回	講義題目	内 容	
1	オリエンテーション	理学と看護に関する人間工学と医用工学との関連について学ぶ	
~	動き易さと使い易さ	身体にとって良い動作について学ぶ。身体各部の寸法と生活姿勢	
15	介助動作	人間工学的介助の方法について学ぶ	
	介護動作	腰部に危険な介護動作について学ぶ。作業姿勢のあり方	
	体温と外気温	体温と室内温度との関係について学ぶ	
	温熱療法	温熱療法の理論について学ぶ	
	人工臓器	人工心臓の最先端と看護に必要な看護師の役割について学ぶ	
	外科の看護と理学	手術室での看護師の役割と、その後の理学療法士の仕事	
	最先端医療1	ビデオを用いた最先端医療の紹介	
	最先端医療2	ビデオを用いた最先端医療の紹介	
	医療事故対策	看護と理学に役立つ医療器具の安全操作について	
	医療機器	さまざまな医療機器について学ぶ	
	臍帯血医療	臍帯血医療最前線について学ぶ	
	脳神経外科医療	脳神経外科医療と看護師、理学療法士の役割について学ぶ	
	バリアフリー	障害者にとって安全な室内環境について。(実習)	
	室内環境	室内の空調の現状を調査し、改良点を検討する。(実習)	
	まとめ	新しい健康文化創出のための社会で求められる医療機器の姿	
テキスト、教材、参考書			

授業科目名	心理学	担当教員	北川 公路
対象学生	1学年	学期及び曜日・時限	前期・火曜 限
単 位	2単位	選 択	教室名
回	講義題目	内 容	
1 2	心理学とは 心理学の研究法	心理学とはどういう学問かを知るために、心理学の歴史と心理学で用いられる方法について理解する	
3	感覚と知覚	人間や動物が環境に適応して行動し生活していくには、環境の状況を知る必要がある。その認知機能について理解する。	
4・5	学習と記憶	人間の大きな特徴は環境にあわせて行動を変容し、経験を記憶して、その後の生活に役立てることである。人間が築いてきた文化を子孫に伝えるための教育や訓練の基本原則であることを理解する。	
6	意識・思考・言語	認知科学と大脳生理学	
7	動機づけと情動	人間や動物の行動には、何らかの動機がある。周囲の状況がまったく同じであっても、同じ人間が行う行動はときにより異なること、また、人間は心の中で感じるだけでなく表情に現れ、行動に反映し、身体的変化も生ずることを理解する。	
8・9	発達	人間がどのようにして知覚や知能を身につけるか、人間の発達について理解する。	
10 11	性格	同じ環境、同じ場面におかれても人間が違えば行動が違うことを理解する。	
12	対人関係	人間は他者との関わりの中に生きている。ここでは社会心理学の研究成果を概観する。	
13 ~ 15	精神障害	様々な精神障害を理解する。	
テキスト、教材、参考書			

授 業 科 目 名	法 学	担 当 教 官	内藤 和美
対 象 学 生	1学年	学期及び曜日・時限	後期・金曜 限 1～4回は土曜集中講義
単 位	2単位	選 択	教室名
回	講 義 題 目	内 容	
1	世界の医療と福祉(1)		
2	世界の医療と福祉(2)		
3	世界の医療と福祉(3)		
4	世界の医療と福祉(4)		
5	法規	法規の概念、法規の種類、衛生法規	
6	医事法規(1)	保健師助産師看護師法	
7	医事法規(2)	保健師助産師看護師法	
8	医事法規(3)	理学療法士・作業療法士法	
9	医事法規(4)	理学療法士・作業療法士法 ・医師法	
10	医事法規(5)	医療法	
11	薬事法規	薬事法	
12	保健衛生法規(1)	地域保健法、老人保健法	
13	保健衛生法規(2)	母子保健法、精神保健及び精神障害者福祉に関する法律	
14	予防衛生法規	感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律	
15	試験		
テキスト、教材、参考書		テキスト 医療法制研究会：健康政策六法 最新年度版、中央法規	

授 業 科 目 名	社 会 学	担 当 教 官	内藤 和美/井坂 和広
対 象 学 生	1学年	学期及び曜日・時限	前期・月曜 限
単 位	2単位	選 択	教室名
回	講 義 題 目	内 容	
1		社会生活と法・裁判	
2		"	
3		家族1(結婚・夫婦)	
4		家族2(")	
5		家族3(親子)	
6		男女関係1(セクハラ・ストーカー等)	
7		男女関係2(婚約・未婚の母等)	
8		学校(校則裁判等)	
9		地域社会・近隣関係	
10		労働問題	
11		自殺について	
12		医療について	
13		薬害訴訟	
14		悪徳商法(マルチ商法等)	
15		サラ金問題(自己破産・再生手続等)	
テキスト、教材、参考書			

授 業 科 目 名	教 育 学	担 当 教 官	平 形 作 太 郎
对 象 学 生	第 1 学 年	学 期 及 び 曜 日 ・ 時 限	後 期 ・ 水 曜 限
单 位	2 单 位	選 択	教 室 名
回	講 義 題 目	内 容	
		講義中に掲示する。	
テキスト、教材、参考書			

授業科目名	健康科学	担当教官	栗田 昌裕
対象学生	1学年	学期及び曜日・時限	後期・水曜 限
単 位	2単位	選 択	教室名
回	講義題目	内 容	
1	健康科学とは	健康の状況。病気と健康の定義。生活と健康科学。	
2	加齢の統御のメカニズム	細胞の加齢変化。発生と加齢変化：神経系、心循環系、呼吸器系、内分泌系、消化器系、生体防御・免疫機構。	
3	生命活動の周期性	バイオリズム：細胞増殖、神経系、心循環系、呼吸系、内分泌系、消化器系、防御・免疫系。	
4	胎生期と周産期の健康科学	卵子、精子、受精、着床。胎児の発育。胎児・胎盤・母体の相互作用。妊娠を維持するメカニズム。分娩。乳汁分泌のメカニズムと母乳哺育。	
5	乳幼児期の健康科学(1)	人間の誕生とは。母と子の絆。乳幼児の栄養と発育。泣き声と言葉。	
6	乳幼児期の健康科学(2)	運動機能の発達。教育・訓練の最適期と臨界期。	
7	少年期・青年期の健康科学(1)	心身の成長期の諸問題。成長期の体の発育。素因と環境との相互作用。体を鍛えることの意味。	
8	少年期・青年期の健康科学(2)	少年期・青年期の食事学。思春期の精神構造。思春期発来メカニズム。	
9	成人期・壮年期の健康科学(1)	健康の指標としての検査値の読み方。環境と生体反応。運動と生体反応。	
10	成人期・壮年期の健康科学(2)	安静の生理学。ストレスと生体反応。日常における生体反応：睡眠のメカニズムとパターン、食事と消化、入浴、疲労。	
11	成人期・壮年期の健康科学(3)	日常における生体反応：肥満、生活様式と健康、喫煙、アルコール。	
12	成人期・壮年期の健康科学(4)	外傷と生体反応。薬と生体反応。閉経期の特徴。生活活動と脳。病気と生体反応。	
13	老年期の健康科学	老化の諸学説。老年期の常態値。老年期の体の特徴。日常みられる生体反応の変化の仕組み。知能の老化と「ぼけ」。	
14	その他	必要に応じて以上の内容を補う。	
テキスト、教材、参考書		「健康科学」 本間日臣、古谷博、丸井英二 医学書院	

授業科目名	栄養学	担当教官	澤田 孝子
対象学生	2学年	学期及び曜日・時限	前期
単位	2単位	選択	教室名
回	講義題目	内 容	
1	日常生活と栄養	日常生活と食事	
2		食事と栄養のアセスメント	
3	食物と栄養素	食品の種類と栄養素	
4		栄養素とその働き	
5		食物の摂取と消化吸収	
6	ライフステージと健康な食生活	各ライフステージにおける食生活と食事指導	
7			
8	疾病と栄養	消化器系・循環器系の障害と栄養	
9		呼吸器系・代謝障害と栄養	
10		泌尿器系・脳、神経系の障害と栄養	
11	食事指導の実際	糖尿病、虚血性心疾患患者の食事指導	
12		腎疾患、クローン病患者の食事指導	
13		肝硬変患者、胃切除術後の食事指導	
14	経管栄養と高カロリー輸液の管理と指導	栄養療法の種類と適応	
15		高カロリー輸液管理と指導	
テキスト、教材、参考書		わかりやすい栄養学(廣川書店)	

授業科目名	英語	担当教官	河原崎やす子
対象学生	1学年	学期及び曜日・時限	後期・金曜 限
単 位	1単位	必 修	教室名
回	講義題目	内 容	
		<p>現代の日本において、年金、医療、保険、保育といった福祉の問題は、明らかに大きな課題となっている。この授業では、日本人の福祉への意識、ITやハイテク技術の活用、福祉に従事する人々の労働条件、諸外国の実状、NGO やボランティアのあり方等、幅広い話題を取り上げ、この分野でよく使用される英語表現や会話、用語を身につけることを目指す。さらに、それぞれの項目に対する理解と思考を深める機会にもしていきたい。</p>	
テキスト、教材、参考書		テキスト: English for Social Welfare (福祉の英語) 阿部敏之ほか著・金星堂出版	

授 業 科 目 名	英 語	担 当 教 官	河原崎やす子
対 象 学 生	2学年	学期及び曜日・時限	前期
単 位	1単位	必 修	教室名
回	講 義 題 目	内 容	
		この授業は英語 で身につけた表現等にさらにみがきをかけ、使いこなせることを目指す。	
テキスト、教材、参考書			

授 業 科 目 名	体 育	担 当 教 官	近藤 照彦
対 象 学 生	1学年	学 期 及 び 曜 日 ・ 時 限	前 期 ・ 水 曜 限
単 位	1単位	必 修	教 室 名 ; 体 育 館 ・ グ ラ ン ド
回	講 義 題 目	内 容	
1	オリエンテーション	講義概要解説・健康手帳・万歩計配布・施設見学	
2	ウォーキング	コンディショニング	
3	12 分間走	最大酸素摂取量の推定・体力個人評価・運動処方	
4	予備日	最大酸素摂取量の推定・体力個人評価	
5	選択スポーツ	球技系・レクリエーション系・トレーニング系を選択	
6	選択スポーツ	同上	
7	選択スポーツ	同上	
8	選択スポーツ	同上	
9	選択スポーツ	同上	
10	選択スポーツ	同上	
11	選択スポーツ	同上	
12	選択スポーツ	同上	
13	選択スポーツ	同上	
14	12 分間走	最大酸素摂取量の推定、トレーニング効果判定	
15	予備日	最大酸素摂取量の推定、トレーニング効果判定	
準備するもの		トレーニングウェア・シューズ2足(屋内・屋外) 評価;健康手帳の記録状況・出席・態度	

授業科目名	体育	担当教官	近藤 照彦
対象学生	2学年	学期及び曜日・時限	前期
単 位	1単位	必 修	教室名; 体育館・グラウンド
回	講義題目	内 容	
1	オリエンテーション	講義概要解説	
2	ウォーキング	コンディショニング	
3	12 分間走	最大酸素摂取量の推定・体力個人評価・運動処方	
4	予備日	最大酸素摂取量の推定・体力個人評価	
5	選択スポーツ	球技系・レクリエーション系・トレーニング系を選択	
6	選択スポーツ		
7	選択スポーツ		
8	選択スポーツ		
9	選択スポーツ		
10	選択スポーツ		
11	選択スポーツ		
12	選択スポーツ		
13	選択スポーツ		
14	12 分間走	最大酸素摂取量の推定、トレーニング効果判定	
15	予備日	最大酸素摂取量の推定、トレーニング効果判定	
準備するもの		トレーニングウェア・シューズ 2 足(屋内・屋外) 評価; 健康手帳の記録状況・出席・態度	

授業科目名	解剖学	担当教官	小林 圭一
対象学生	1学年	学期及び曜日・時限	前期・月曜 ・ 限
単 位	2単位	必 修	教室名
回	講義題目	内 容	
1	解剖学序論	解剖学とは、人体の概要	
~	人体の構成	細胞、組織、器官、器官系	
30	循環器系	血管系、リンパ系	
	消化器系、呼吸器系	消化器系、呼吸器系	
	泌尿、生殖器系	泌尿器系、生殖器系、内分泌系	
	感覚器系	外皮、視覚器、平衡聴覚器、嗅覚器、味覚器	
	人体の発生、骨学総論	個体発生、骨の形態と構造	
	骨学各論()	頭蓋、脊柱、胸郭	
	骨学各論()	上肢の骨、下肢の骨	
	関節と靭帯	関節靭帯総論、関節靭帯各論	
	筋学総論	骨格筋の構造、作用、神経支配	
	筋学各論()	上肢の筋	
	筋学各論()	下肢の筋、体幹の筋	
	中枢神経系	神経系とは、神経系の発達、脊髄、脳	
	末梢神経系	脊髄神経、脳神経、自律神経系	
テキスト、教材、参考書		標準理学療法学・作業療法学・解剖学	

授業科目名	解剖学実習	担当教官	小林 圭一
対象学生	1学年	学期及び曜日・時限	通年前期・水曜 限 後期・金曜 限
単 位	2単位	必 修	教室名
回	講義題目	内 容	
1	総論	解剖学実習のガイダンス 基礎的な解剖学用語	
2 ~ 4	骨学	骨の名称と形態	
5	予備		
6 ~ 7	筋学	全身表層の筋	
8	小テスト		
9 ~ 12	内臓学	消化器系、泌尿器系、呼吸器系など	
13 ~ 14	脈管系	全身の動脈、静脈	
15	予備		
16 ~ 17	関節と靭帯	関節の種類と働き 全身の関節と靭帯	
18 ~ 20	筋と支配神経	全身の筋の起始と停止 全身の筋の支配神経	
21 ~ 22	感覚器系	嗅覚器、視覚器、聴覚平衡器など	
23 ~ 27	神経系	中枢神経系：脳と脊髄 伝導路 末梢神経系：脳神経と脊髄神経	
28	予備	* 解剖学講義を行う事もある。 * 後期の2時間は解剖見学実習を行う予定	
テキスト、教材、参考書		標準理学療法学・作業療法学「解剖学」医学書院 PT OT 「基礎から学ぶ解剖ノート」医歯薬出版	

授業科目名	生理学	担当教官	高山 清茂
対象学生	1学年	学期及び曜日・時限	通年・金曜 限
単 位	2単位	必 修	教室名
回	講義題目	内 容	
1	生理学総論	生理学とは、ホメオスタシスについて	
2	細胞機能の基礎	細胞の環境、細胞の機能的構造、細胞と細胞外液間の物質輸送、機能蛋白質の形成、細胞機能の調節	
3	細胞の興奮発生と興奮伝導()	刺激と興奮、膜電位	
4	細胞の興奮発生と興奮伝導()	興奮発生とイオンチャネル、興奮の伝導	
5	骨格筋の収縮()	骨格筋の種類と構造、筋線維の構造	
6	骨格筋の収縮()	筋収縮、興奮収縮連関、筋収縮力学、筋のエネルギー発生	
7	シナプス伝達()	神経筋伝達、中枢神経系のシナプス伝達	
8	シナプス伝達()	神経伝達物質と受容体、中枢のシナプスによる興奮伝達の統合、シナプスの可塑性	
9	末梢自律神経系	自律神経系の構成と作用、自律神経系の受容体	
10	運動系	脊髄、脳幹、小脳、大脳基底核、大脳皮質	
11	運動生理	運動における生体の生理変化	
12	感覚()	感覚総論、体性感覚、内臓感覚、痛覚	
13	感覚()	味覚、嗅覚	
14	感覚()	聴覚、前庭感覚、視覚	
15	神経系(まとめ)	中枢神経系の統合	
16	血液	血液の機能、血液の組成、血液型、血液の凝固	
17	生体防御機構	非特異的生体防御機構、特異的生体防御機構(免疫機構)	
18	循環()	心臓、自動性、心筋の電気的活動、心電図	
19	循環()	循環力学、循環中枢	
20	呼吸()	呼吸の機械学、肺内圧と肺体積、換気	
21	呼吸()	ガス交換、呼吸調節中枢	
22	排泄()	腎機能学的解剖学、腎循環、糸球体濾過、再吸収と分泌	
23	排泄()	対向流増幅系、対向流交換系、尿の濃縮と希釈、尿の酸性化、細胞外液の調節、酸-塩基平衡	
24	栄養・代謝	代謝、中間代謝、エネルギー代謝	
25	消化・呼吸	消化管の運動	
26	消化・呼吸	糖質、蛋白質、脂質の消化と吸収、消化管ホルモン	
27	内分泌系()	ホルモンの分泌とその調節機構	
28	内分泌系()	視床下部 - 下垂体系、甲状腺ホルモン、上皮小体ホルモン	
29	内分泌系()	副腎髄質・副腎皮質ホルモン、膵臓からのホルモン	
30	体温調節	体温の生理的変動、体内における熱の産生、体温調節機構	
テキスト、教材、参考書		「シンプル生理学」貴邑富久子、根来英雄 南江堂 「生理学」標準理学療法学・作業療法学 医学書院	

授業科目名	生理学実習	担当教官	高山 清茂
対象学生	1学年	学期及び曜日・時限	後期・金曜 限
単 位	1単位	必 修	教室名
回	講義題目	内 容	
1	実習課題1	血圧測定	
2	実習課題2	心電図測定	
3	実習課題3	肺気量機能測定	
4	実習課題4	腎機能測定	
5	実習課題5	血液測定	
6	実習課題6	ヒト運動神経伝導速度の測定	
7	実習課題7	ヒト大脳誘発電位の測定	
8	実習課題8	カエル中枢神経破壊・切断実験	
9	実習課題9	カエル坐骨神経、電気刺激による興奮と伝導	
10	実習課題10	カエル神経・筋標本を使い神経の電気刺激による筋収縮	
11	実習課題11	ラット延髄切片標本作り、その1	
12	実習課題12	ラット延髄切片標本作り、その2	
13	実習課題13	ラット循環中枢の薬物刺激実験	
14	実習課題14	ラット循環・呼吸中枢の電気刺激実験、その1	
15	実習課題15	ラット循環・呼吸中枢の電気刺激実験、その2	
テキスト、教材、参考書		新生理学実習書」日本生理学会・編 南江堂 「生理学」標準理学療法学・作業療法学 医学書院	

授業科目名	運動学	担当教官	近藤 照彦
対象学生	1学年	学期及び曜日・時限	前期・木曜 限
単 位	2単位	必 修	教室名
回	講義題目	内 容	
1	オリエンテーション	講義概要解説	
2	運動学とは	運動学とその領域・歴史・現状と展望・とらえ方	
3	力学の基礎	力学と身体運動・運動の表し方・法則・力学的エネルギー	
4	生体の構造と機能	細胞・組織・運動器・神経系・中枢神経・感覚器	
5	生体の構造と機能	呼吸・血液循環・体温調節・腎臓・栄養とエネルギー代謝	
6	四肢と体幹の運動	上肢・下肢の各運動	
7	四肢と体幹の運動	体幹脊柱の各運動	
8	運動・動作の分析	運動・作業動作・身体運動能力の各分析	
9	姿勢	重心・安定性・姿勢	
10	歩行	周期・運動学的歩行・力学分析・筋活動	
11	歩行	エネルギー代謝・小児歩行・走行	
12	歩行	異常歩行	
13	運動発達	成長・成熟・発達・研究法・胎児・乳幼児の運動発達	
14	運動学習	運動技能・能力・学習・練習訓練	
15	まとめ・補講		
テキスト、教材		基礎運動学(医歯薬出版) ¥5800 評価;試験・面接(口頭試問)	

授業科目名	運動学実習	担当教官	近藤 照彦
対象学生	1学年	学期及び曜日・時限	後期・水曜 限
単 位	1単位	必 修	教室名
回	講義題目	内 容	
1	オリエンテーション	講義概要解説	
	生体力学の基礎	運動の記述・運動力学・静力学・力学的エネルギー・演習	
2	生体の観察と計測	生体観察・生体計測・演習・体脂肪厚・筋厚測定	
3	姿勢	演習	
4	関節運動	身体的面と軸・関節運動の記述・運動の自由度・関節可動域	
5	機能解剖学(筋の作用)	演習	
6	筋機能と協調運動	演習	
7	反射	反射運動・姿勢制御による反射・演習	
8	歩行	演習	
9	呼吸	呼吸運動・肺機能検査・演習	
10	循環	血圧・脈拍・心拍数・心電図・運動負荷試験・体脂肪測定	
11	エネルギー代謝	代謝・代謝量測定・運動負荷による呼吸循環応答の観察	
12	感覚と運動の技能	感覚と知覚・運動・知覚・運動技能	
13	運動・動作分析	動作3次元解析・運動時筋電図解析	
14	運動・動作分析	演習	
15	運動発達	演習	
テキスト、教材		運動学実習(医歯薬出版) ¥2800 実習はユニフォーム着用のこと・評価;実習テスト・面接	

授 業 科 目 名	人間発達学	担 当 教 官	青山 正征
対 象 学 生	1 学年	学期及び曜日・時限	前期・火曜 限
単 位	2 単位	必 修	教室名
回	講 義 題 目	内 容	
1	人間発達とは(1)	発達概要	
2	人間発達とは(2)	発達理論と研究方法	
3	出生前発達と出生		
4	乳児・幼児前期(1)	身体的発達	
5	乳児・幼児前期(2)	認知的発達	
6	乳児・幼児前期(3)	情緒的・社会的発達	
7	幼児期後期(1)	身体的発達と認知的発達	
8	幼児期後期(2)	情緒的・社会的発達と乳幼児期の発達評価	
9	学童期(1)	身体的発達と認知的発達	
10	学童期(2)	情緒的・社会的発達	
11	障害児の発達と支援		
12	青年期		
13	成人期		
14	高齢期		
15	テスト		
テキスト、教材、参考書		テキスト「生涯人間発達学」上田礼子著 三輪書店 1996.	

授 業 科 目 名	機能解剖学	担 当 教 官	小林 圭一
対 象 学 生	1学年	学期及び曜日・時限	後期・月曜 限
単 位	2単位	選 択	教室名
回	講 義 題 目	内 容	
1 ~ 4	骨格系	各部の骨についての特徴	
5 ~ 8	筋系	各部の筋の働き	
9 ~ 11	神経系	各部の神経分布とその働き	
12 ~ 14	感覚器系	各感覚器の解剖学的特徴と情報伝達経路	
15	予備		
テキスト、教材、参考書		標準理学療法学・作業療法学「解剖学」医学書院	

授業科目名	発達心理学	担当教員	北川 公路
対象学生	1学年	学期及び曜日・時限	後期・火曜 限
単 位	2単位	選 択	教室名
回	講義題目	内 容	
1	発達心理学の成立と研究方法	発達の概念、発達心理学、発達研究の資料収集方法	
2	発達の理論	概説、発達原理、主要な発達理論	
3	発達の段階と課題	生涯発達と発達段階、発達課題	
4	身体と運動能力の発達	身体・運動能力の発達の意味、身体の発達、運動能力の発達	
5	認知の発達	知覚の発達過程、記憶、思考、知能	
6	認知スタイル	熟慮型 衝動型、場独立型 場依存型	
7	言語の発達	言語の習得、言語の機能、言語教育、言語障害	
8	パーソナリティの発達	パーソナリティ、パーソナリティの発達、パーソナリティ検査	
9	親子関係の発達	親子関係の役割理論、親子関係における役割の発達の变化	
10	道徳性の発達	道徳性、主要な道徳性発達理論	
11	社会性の発達	社会性の発達、対人関係の発達	
12	性役割の発達	性役割の獲得に関する理論、性役割の自己概念	
13	勤労意欲の発達	モラルの測定、勤労意欲の発達の側面	
14	集団の発達	集団とは何か、集団発達の過程、集団構造の測定	
15	発達障害の諸問題	発達障害の概念と分類、精神遅滞の発達心理、自閉症の発達心理	
テキスト、教材、参考書			

授業科目名	病理学	担当教官	武田 淳史
対象学生	2学年	学期及び曜日・時限	後期
単位	1単位	必修	教室名
回	講義題目	内 容	
1 ~ 15	(総論)病理学概要 病因論 退行性病変 代謝異常 進行性病変 循環障害 免疫 炎症 腫瘍 放射線障害 老化 先天異常 (各論)循環器 呼吸器 消化器 神経系 運動器 泌尿・生殖器 内分泌 造血器 皮膚, 感覚器	病理学の歴史 病因とは, 変性, 萎縮, 壊死 蛋白, 脂質, 糖質, 色素代謝異常 再生, 化生, 肥大, 過形成 体液循環, 局所循環障害 概念, 移植 定義, 感染症 分類, 形態, 進行度, メカニズム 発癌, 臓器障害 細胞周期, 老化モデル 奇形, 骨格異常 心臓, 血管 疾患 上気道, 気管, 肺, 胸膜 疾患 食道, 胃, 小・大腸, 肝臓, 膵臓 疾患 中枢神経系, 末梢神経系 骨・軟骨, 関節 疾患 腎臓, 尿路, 生殖器 疾患 甲状腺, 副腎, 膵臓 疾患 骨髄, リンパ節, 網内系 疾患 皮膚, 聴器, 視器 疾患	
テキスト、教材、参考書			

授業科目名	臨床心理学	担当教員	北川 公路
対象学生	2学年	学期及び曜日・時限	後期
単 位	2単位	必 修	教室名
回	講義題目	内 容	
1	臨床心理学の基本的 発想	臨床心理学とは何か、臨床心理学の対象、臨床心理学の課題	
2 ~ 4	臨床アセスメントの方法 と臨床面接	臨床アセスメントの基本的な考え方、パーソナリティ・アセスメントの方法、 行動アセスメントの方法、発達アセスメントの方法、病理のアセスメント	
5 ~ 10	精神障害	神経症、不安障害、身体表現性障害、解離性障害、適応障害、人格障 害、摂食障害、精神分裂病、依存症、気分障害、てんかん、睡眠障害、 性障害、老化とその障害	
11 ~ 15	精神療法	力道精神療法、認知行動療法、支持療法、薬物療法	
テキスト、教材、参考書		標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 臨床心理学 医学書院	

授業科目名	内科学	担当教官	小林 功
対象学生	2学年	学期及び曜日・時限	前期
単 位	1単位	必修	教室名
回	講義題目	内 容	
1	内科学	内科学総論()	
2		内科学総論()	
3		循環器疾患	
4		呼吸器疾患	
5		消化器疾患	
6		肝胆膵疾患	
7		代謝性疾患	
8		内分泌疾患	
9		血液疾患	
10		腎泌尿器疾患	
11		膠原病・アレルギー・免疫不全	
12		感染症	
13		中毒性疾患	
14		皮膚疾患	
15		リハビリテーション医学と内科学との接点	
テキスト、教材、参考書		標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学 医学書院	

授業科目名	神経内科学	担当教官	古城 徹
対象学生	2学年	学期及び曜日・時限	後期
単 位	1単位	必修	教室名
回	講義題目	内 容	
1 ~ 15	リハビリテーションと神経内科 神経系の解剖 神経学的所見 検査の見方 神経症候(1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10) (11) (12) 神経疾患各論(1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10) (11) 神経疾患総論(1) 神経疾患総論(2) 神経疾患総論(3)	意識障害みかた 運動障害 その1 運動障害 その2 運動障害 その3 運動失調 感覚障害 失語・失認・失行 痴呆 その1 痴呆 その2 痴呆 その3 構音・嚥下障害 排尿障害 脳血管障害 脳出血 脳血管障害 脳梗塞 脳血管障害 原因と予防 頭部外傷・脳腫瘍 脊髄疾患 変性疾患1 変性疾患2 末梢神経障害 筋疾患 神経系感染症 小児遺伝性疾患	
テキスト、教材、参考書			

授業科目名	整形外科	担当教官	白倉 賢二
対象学生	2 学年	学期及び曜日・時限	前期
単 位	1 単位	必 修	教室名
回	講義題目	内 容	
1	整形外科とは・骨・関節の構造・整形外科的診察法	整形外科の内容、骨関節の解剖、四肢角度計測、徒手筋力検査法 (MMT)	
2	骨折・関節外傷	骨折の分類・診断・治療、骨折治療の三原則、二関節固定の原則、関節外傷の分類・診断・治療	
3	骨・関節感染症	骨髄炎・化膿性関節炎の診断と治療	
4	骨代謝・骨系統疾患・骨端症	骨軟化症・骨粗鬆症・骨系統疾患の診断・治療、骨端症とは	
5	関節炎・関節症	慢性関節リウマチ、変形性関節症、神経病性関節症、血友病性関節症	
6	骨軟部腫瘍	骨軟部の良性・悪性腫瘍の分類・診断・治療、骨肉腫、巨細胞腫	
7	股関節の疾患・外傷	先天性股関節脱臼、骨頭すべり症、ペルテス病、大腿骨頸部骨折、特発性骨頭壊死、変形性股関節症	
8	膝関節の疾患・外傷	オスグッドシュラッテル病、膝靭帯損傷、半月損傷・膝蓋骨脱臼、変形性膝関節症	
9	足部の疾患・外傷	先天性内反足、ケーラー病、踵骨骨端症、足関節脱臼骨折の分類、踵骨骨折、アキレス腱損傷	
10	脊椎の疾患・外傷	脊椎の機能解剖、斜頸、脊椎側弯症、頸椎ヘルニア、後縦走靭帯骨化症、脊椎分離症、脊椎すべり症、腰椎椎間板ヘルニア	
11	脊髄損傷・末梢神経障害	脊髄損傷の診断・治療、末梢神経損傷の分類 (Seddon) ・診断・治療、絞扼性神経障害	
12	肩・肘関節・前腕の疾患・外傷	肩関節周囲炎、肩腱板損傷、肩関節脱臼、小児上腕骨顆上骨折、モンテジア骨折、フォルクマン拘縮	
13	手の疾患・外傷 1	手の機能解剖、コーレス骨折、舟状骨骨折、キーンベック病、手の腱鞘炎	
14	手の疾患・外傷 2	手の先天奇形、屈筋腱・伸筋腱損傷、手指の靭帯損傷、槌指、ボタン穴変形、スワンネック変形	
15	切断・その他	四肢の切断と義手・義足、その他・予備	
テキスト、教材、参考書			

授業科目名	小児科学	担当教官	青山 正征
対象学生	2 学年	学期及び曜日・時限	後期
単 位	1 単位	必 修	教室名
回	講義題目	内 容	
1	小児科学概論	こどもの成長・発達について学ぶ	
2	小児科学概論(つづき) 診断と治療の概要		
3	新生児・未熟児疾患	リハビリテーションの中核をなす疾患群を学ぶ	
4	先天異常、先天代謝異常		
5	神経・筋・骨等疾患		
6	神経・筋・骨等疾患(つづき)		
7	循環器疾患、呼吸器疾患		
8	感染症、消化器疾患		
9	内分泌・代謝疾患		
10	血液疾患		
11	免疫・アレルギー疾患、 膠原病		
12	腎・泌尿器疾患、生殖器 疾患、腫瘍性疾患		
13	心身症、神経症など	特に重症心身障害児に焦点をあてて学ぶ	
14	重症心身障害児、眼科・ 耳鼻科的疾患		
15	テスト		
テキスト、教材、参考書		テキスト「標準理学療法学・作業療法学」「小児科学」富田 豊著(医学書院)2000.	

授 業 科 目 名	精神医学	担 当 教 官	車地 暁生
対 象 学 生	2学年	学 期 及 び 曜 日 ・ 時 限	後 期
単 位	1単位	必 修	教 室 名
回	講 義 題 目	内 容	
1 ~ 15		<p>総論: OT と精神医学のかかわり</p> <p>総論: 精神障害の成因と分類</p> <p>総論: 精神症状と症候</p> <p>総論: 精神保健福祉法と医療</p> <p>総論: ライフサイクルと精神医学</p> <p>総論: 社会・文化と精神医学</p> <p>精神分裂病とその関連疾患</p> <p>躁うつ病</p> <p>脳器質性精神疾患: 神経変性疾患</p> <p>脳器質性精神疾患: 外傷、感染症、その他</p> <p>症候性精神障害</p> <p>てんかん</p> <p>精神作用薬物による精神および行動の障害</p> <p>神経症</p> <p>生理的障害および身体的要因に関連した障害</p> <p>成人の人格・行動・性の障害</p> <p>精神遅滞</p> <p>心理的発達障害</p> <p>リエゾン精神医学</p> <p>精神障害の治療: 薬物療法</p> <p>精神障害の治療: 精神療法</p> <p>精神障害の治療: リハビリテーション</p>	
テキスト、教材、参考書			

授業科目名	リハビリテーション医学	担当教官	栗田 昌裕
対象学生	2学年	学期及び曜日・時限	前期
単 位	1単位	必 修	教室名
回	講義題目	内 容	
1	リハビリテーション医学とは	リハビリテーションの定義と対象の変遷。 病理指向的アプローチと機能指向的アプローチ。障害の発生予防。	
2	診断と機能評価 (1)	診断とは。診断の方法。評価と測定。関節可動域、筋力測定、運動・動作能力	
3	診断と機能評価 (2)	フィットネス、心理検査、日常生活活動、QOL、活動調査、社会・経済的情報。	
4	疾病治療とリハビリテーション医療 (1)	リハビリテーション医療の戦略。理学療法。作業療法。音声・言語障害。	
5	疾病治療とリハビリテーション医療 (2)	義肢・装具・車椅子・歩行補助・自助具。日常生活活動訓練と環境整備。	
6	疾病治療とリハビリテーション医療 (3)	リハビリテーション看護。心理的アプローチとカウンセリング。栄養指導。人工臓器。その他。	
7	リハビリテーション医療における特殊問題 (1)	嚥下障害。膀胱直腸障害。廃用症候群。	
8	リハビリテーション医療における特殊問題 (2)	褥瘡。可動域制限。性の問題。高齢者のリハビリテーション。	
9	リハビリテーション医療の主要な対象(1)	発達障害、外傷後遺症。	
10	リハビリテーション医療の主要な対象 (2)	循環器系疾患。呼吸器系疾患。	
11	リハビリテーション医療の主要な対象 (3)	神経筋系疾患。中枢神経系変性疾患。	
12	リハビリテーション医療の主要な対象 (4)	骨関節系疾患。慢性疼痛。精神障害。	
13	リハビリテーションを支える制度	諸制度。障害にかかわる手帳。	
14	その他	必要に応じて以上の内容を補う。	
テキスト、教材、参考書		「入門リハビリテーション医学」、監修 中村隆一。医歯薬出版。	

授 業 科 目 名	臨床検査学	担 当 教 官	平尾 良雄
対 象 学 生	2学年	学期及び曜日・時限	後期
単 位	1単位	必 修	教室名
回	講 義 題 目	内 容	
		本年度開講せず	
テキスト、教材、参考書			

授業科目名	医学概論	担当教官	栗田 昌裕
対象学生	2学年	学期及び曜日・時限	前期
単位	2単位	選択	教室名
回	講義題目	内 容	
1	医学のとらえかた	医学の定義。人間の生命を考える。医の倫理。QOL。病気と医学。	
2	医学史(1)	医学の起源。古代の医学。中世の医学。	
3	医学史(2)	近世の医学。20世紀の医学。日本の医学の発達。	
4	健康・病気と医学の体系	健康とは。病気の理解と分類。病気と心の働き。医学の大系。	
5	病気の原因	病変と症状。病理学の分類と症状。病気の原因。病気の内因と外因。	
6	病気による身体変化(1)	病変の分類。血行障害による分類。進行性の病変。退行性の病変。炎症。	
7	病気による身体変化(2)	腫瘍の分類。腫瘍の発育と広がり方。腫瘍の原因。白血病。奇形。生体反応。	
8	病気の診断	診断学の歴史。診断の方法。診察の技術。診断と検査。病名について。	
9	病気の治療とリハビリテーション	何が病気をなおすか。治療法の分類。現代の治療法。安静と食事と看護。リハビリテーション医学。	
10	病気の予防	予防の原則。予防医学と衛生学。定期的健康診断。人間ドックの意義。成人病の一次予防。	
11	新しい医療システム	日本の医療システムとその役割。自由診療・保健診療・慈善医療。救急医療。	
12	健康教育と衛生統計	健康教育。衛生統計。衛生政策と公衆衛生の組織。医療関係者と医療施設。	
13	医学および看護の生命へのアプローチ	現代医療の反省。キュアとケア。ケアのアート。ターミナルケア。死の判定と尊厳死。	
14	その他	以上の内容を必要に応じて補う。	
テキスト、教材、参考書		「系統看護学講座別巻11 医学概論」、日野原重明著、医学書院。	

授業科目名	老年医学	担当教官	栗田 昌裕
対象学生	2学年	学期及び曜日・時限	後期
単 位	2単位	選 択	教室名
回	講義題目	内 容	
1	加齢と老化 (1)	老化と老年病の考え方。加齢に伴う生理機能の変化。	
2	加齢と老化 (2)	加齢に伴う運動機能の変化。加齢に伴う精神心理面の変化。	
3	高齢者に多い症候と循環器疾患	老年症候群。代表的な老年症候群。 循環器疾患：うっ血性心不全、虚血性心疾患、脳血管障害、血圧異常、不整脈、弁膜症、心筋・心膜疾患、高齢者の血管疾患、等。 理学・作業療法との関連。	
4	呼吸器疾患	呼吸器疾患：呼吸器感染症、誤嚥と誤嚥性肺炎、肺癌、閉塞性疾患、間質性肺炎。理学・作業療法との関連事項	
5	消化器疾患	消化器疾患：上部消化管疾患、腸疾患、肝疾患、胆道・膵疾患。 理学・作業療法との関連事項。	
6	骨運動器疾患	骨運動器疾患：骨粗鬆症、変形性関節症、後縦靭帯骨化症、関節リウマチ。 理学・作業療法との関連事項。	
7	精神神経疾患	精神神経疾患：老年痴呆、うつ病、Parkinson 病、多系統萎縮症と自律神経障害、末梢神経障害。理学・作業療法との関連事項。	
8	内分泌代謝疾患と血液・免疫疾患	内分泌代謝疾患：糖尿病、高脂血症、甲状腺疾患、痛風。 血液・免疫疾患：貧血、白血病と骨髄異形成症候群、多発性骨髄腫、膠原病。理学・作業療法との関連事項。	
9	腎臓・泌尿器疾患と皮膚・口腔疾患	腎臓疾患：腎不全、尿路感染症、前立腺疾患。 皮膚疾患：高齢者の皮膚疾患の特徴。口腔疾患：高齢者の特徴。 理学・作業療法との関連事項。	
10	高齢者との接し方と高齢者の機能評価	医療従事者の心得。患者・家族との関わり。インフォームド・コンセント。 機能評価：日常生活活動度の評価、知的機能の評価、QOLの評価。 高齢者の退院支援の必要性。介護保険との関わり。	
11	高齢者の定義と人口動態	高齢者の定義。世界と日本における人口動態。 社会学、経済学から見た高齢社会。	
12	高齢者の医療、看護、介護、福祉、保健	高齢者の医療、看護、介護と福祉。介護保険制度。老人保健。	
13	高齢者のリハビリテーション	高齢者のリハビリテーションの考え方。 高齢者の理学療法、作業療法、言語療法。	
14	その他	必要に応じて以上の内容を補う講義を行う。	
テキスト、教材、参考書		「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 老寝学」、編者 大内尉義。医学書院。	

授 業 科 目 名	公衆衛生学	担 当 教 官	内藤 和美
対 象 学 生	2 学年	学期及び曜日・時限	前期
単 位	2 単位	必 修	教室名
回	講 義 題 目	内 容	
1	公衆衛生	公衆衛生の概念、公衆衛生の3大関心、方法としての疫学	
2	健康の指標(1)	国勢調査、人口静態、人口問題	
3	健康の指標(2)	人口動態 出生、死亡	
4	健康の指標(3)	人口動態 死亡、死産、婚姻、離婚	
5	健康の指標(4)	生命表 平均余命	
6	感染症とその予防(1)	感染症と伝染病、感染症の成立要件、感染症の流行、感染症の種類	
7	感染症とその予防(2)	感染症の動向(とくに、新興感染症・再興感染症)、感染症予防対策	
8	食品保健と栄養	食品の安全 食中毒、食品衛生管理、国民栄養調査	
9	生活環境の安全(1)	環境問題、環境対策の基本 環境基準と排出規制、典型7公害、地球環境問題	
10	生活環境の安全(2)	生活環境 水、廃棄物	
11	地域保健	地域保健法と地域保健サービス、医療サービスの提供、保健医療従事者、ヘルスサービスの方向	
12	母子保健	母子保健統計、母子保健サービス	
13	学校保健	学校保健事業、感染症予防、学校環境衛生、学校安全、学校給食	
14	産業保健	産業保健、健康管理、作業管理、作業環境管理、職業病、労働災害	
15	試験		
テキスト、教材、参考書		テキスト 清水忠彦他編:わかりやすい公衆衛生学、廣川書店 厚生統計協会:国民衛生の動向(最新年度版)	

授 業 科 目 名	リハビリテーション概論	担 当 教 官	松澤 正
対 象 学 生	1 学年	学期及び曜日・時限	後期・木曜 限
単 位	2 単位	必 修	教室名
回	講 義 題 目	内 容	
1		リハビリテーションの定義と目的	
2		病気とは、医学モデル	
3		障害とは、患者と障害者、慢性疾患モデル	
4		リハビリテーションとノーマライゼーション	
5		障害観と国際障害分類	
6		発症から社会生活	
7		リハビリテーションの諸相	
8		リハビリテーション計画とプログラム	
9		チーム・アプローチ	
10		リハビリテーション専門職	
11		リハビリテーションの手段	
12		社会保障と保健・医療制度	
13		社会保険制度	
14		社会福祉と公的扶助制度	
15		高齢者対策と介護保険	
		期末試験	
テキスト、教材、参考書		教科書、入門リハビリテーション概論、中村隆一編(医歯薬出版)	

授 業 科 目 名	社会福祉学	担 当 教 官	金谷 春代
対 象 学 生	2学年	学期及び曜日・時限	前期
単 位	2単位	選 択	教室名
回	講 義 題 目	内 容	
1		社会保障とは 概念、意義、構造	
2		" 歴史	
3		" 日本の社会保障	
4		公的扶助	
5		"	
6		社会福祉 福祉サービス	
7		" 医療サービス	
8		" 福祉サービス	
9		社会福祉法各論	
10		"	
11		"	
12		"	
13		"	
14		"	
15		試験	
テキスト、教材、参考書			

授 業 科 目 名	理学療法概論	担 当 教 官	松澤 正
対 象 学 生	1学年	学期及び曜日・時限	前期・金曜 限
単 位	2単位	必 修	教室名
回	講 義 題 目	内 容	
1		理学療法の定義と分類	
2		理学療法とリハビリテーション	
3		理学療法と障害論	
4		理学療法の歴史	
5		理学療法士法	
6		職業倫理	
7		理学療法業務と組織	
8		理学療法評価学 1	
9		理学療法評価学 2	
10		理学療法の治療法とその対策 1	
11		理学療法の治療法とその対策 2	
12		理学療法の治療法とその対策 3	
13		病院見学	
14		病院見学	
15		病院見学	
		期末試験	
テキスト、教材、参考書		教科書 理学療法概論、奈良 勲編(医歯薬出版)	

授業科目名	臨床運動学	担当教官	江口 勝彦
対象学生	2学年	学期及び曜日・時限	後期
単 位	2単位	必 修	教室名
回	講義題目	内 容	
1 ~ 15	<p>コースオリエンテーション</p> <p>総論 概説 概説 概説 概説 概説 概説 概説 概説 概説 概説 概説 概説</p> <p>総論 概説 概説 概説 概説 概説 演習 演習 演習 演習 概説 概説 予備日 試験</p>	<p>オリエンテーション(臨床運動学概論)</p> <p>総論(身体運動の分析) 概説:姿勢分析 概説:運動分析 概説:動作分析 概説:関節運動 概説:筋活動 概説:反応,反射 概説:運動発達 概説:随意運動・不随意運動 概説:運動障害の測定と評価 概説:運動障害の測定と評価 概説:運動障害の測定と評価</p> <p>オリエンテーション(臨床動作分析概論)</p> <p>総論(病態運動学) 分析・評価:姿勢分析 分析・評価:歩行分析 (1)歩行周期と時間空間変数 分析・評価:歩行分析 (2)運動学・運動生理学的分析 分析・評価:測定と評価,尺度,妥当性,信頼性 分析・評価:クリニカル リーズニングとは 分析・評価:クリニカル リーズニング 分析・評価:クリニカル リーズニング 分析・評価:クリニカル リーズニング 分析・評価:発表会 廃用性症候群・誤用性症候群・過用性症候群 疲労、老化</p> <p>試験</p>	
テキスト、教材、参考書	<p>テキスト;丸山仁司,他:臨床運動学第3版(理学療法科学シリーズ),アイベック.</p> <p>参考書; 中村隆一,他:臨床運動学,医歯薬出版. 奈良勲監修:臨床動作分析(標準理学療法学・専門分野),医学書院. 中村隆一,他:基礎運動学,医歯薬出版 その他作成資料配布.</p>		

授業科目名	理学療法研究法	担当教官	松澤 正・江口 勝彦
対象学生	3学年	学期及び曜日・時限	前期
単 位	2単位	必 修	教室名
回	講義題目	内 容	
1		理学療法と研究(オリエンテーション、研究の手段、着眼)	
2		情報収集法(文献の集め方、読み方)	
3		仮説、プロトコルの立案	
4		研究発表の仕方	
5		論文の作成 1(形式、内容、投稿規定、査読)	
6		論文の作成 2(題名、著者名、序論、成績、考察、引用文献)	
7		臨床研究の実際 1(機器を用いた研究)	
8		臨床研究の実際 2(症例研究)	
9		理学療法研究に必要な統計 1	
10		理学療法研究に必要な統計 2	
11		文献抄読 1	
12		文献抄読 2	
13		文献抄読 3	
14		文献抄読 4	
15		まとめ	
テキスト、教材、参考書		教科書:理学療法研究法、奈良 勲監修、医学書院	

授業科目名	理学療法評価学	担当教官	松澤 正
対象学生	1学年	学期及び曜日・時限	後期・木曜 限
単 位	2単位	必 修	教室名
回	講義題目	内 容	
1		理学療法評価総論	
2		一般評価事項	
3		形態測定	
4		関節可動域測定	
5		筋力検査	
6		整形外科疾患検査と痛みの評価	
7		知覚検査と反射検査	
8		運動発達検査と姿勢反射検査	
9		協調性検査と筋トーン検査	
10		片麻痺機能検査	
11		脳神経検査	
12		高次脳機能検査	
13		日常生活活動検査と動作分析	
14		呼吸・循環機能検査	
15		電気生理学的検査	
テキスト、教材、参考書		教科書：理学療法評価学、松澤 正著(金原出版)	

授業科目名	理学療法評価学実習	担当教員	富田 浩・富田和秀
対象学生	1・2学年	学期及び曜日・時限	後期・月曜 限(1学年) 通年(2学年)
単 位	3単位	必修	教室名
回	講義題目	内 容	
1		形態測定1 四肢長	
2		形態測定2 四肢長	
3		形態測定3 周径	
4		関節可動域測定1 上肢	
5		関節可動域測定2 上肢	
6		関節可動域測定3 上肢	
7		関節可動域測定4 下肢	
8		関節可動域測定5 下肢	
9		関節可動域測定6 下肢	
10		関節可動域測定7 体幹	
11		筋力検査1 徒手筋力検査法 下肢	
12		筋力検査2 徒手筋力検査法 下肢	
13		筋力検査3 徒手筋力検査法 下肢	
14		筋力検査4 徒手筋力検査法 上肢	
15		筋力検査5 徒手筋力検査法 上肢	
16		筋力検査6 徒手筋力検査法 上肢	
17		筋力検査7 徒手筋力検査法 上肢	
18		筋力検査8 徒手筋力検査法 体幹	
19		筋力検査9 徒手筋力検査法 顔面	
20		筋力検査10 機器による測定	
21		知覚検査	
22		反射検査	
23		運動発達検査1	
24		運動発達検査2	
25		姿勢反射検査1	
26		姿勢反射検査2	
27		協調性検査1	
28		協調性検査2	
29		筋トーヌ検査1	
30		筋トーヌ検査2	
31		片麻痺運動機能検査1 Brunnstrom 法 片麻痺運動機能検査	
32		片麻痺運動機能検査2	
33		1 2段階式片麻痺機能テスト	
34		脳神経検査1	
35		脳神経検査2	
36		高次脳機能検査1	
37		高次脳機能検査2	
38		動作分析1	
39		動作分析2	
40		歩行分析1 歩行分析2	

回	講義題目	内 容
41		日常生活活動検査
42		心肺機能検査
43		記録方法1
44		記録方法2
45		実技テスト
テキスト、教材、参考書		「理学療法評価法」岩倉博光監修, 松澤 正著(金原出版)

授業科目名	基礎運動療法学	担当教員	富田 浩
対象学生	1学年	学期及び曜日・時限	前期・水曜 限
単 位	2単位	必 修	教室名
回	講義題目	内 容	
1 ~ 15		総論1 総論2 関節可動域運動 関節モビライゼーション 矯正・伸張運動 筋力増強・持久力増大訓練 協調性訓練 神経筋再教育法 呼吸・排痰訓練 基本動作・歩行訓練1 基本動作・歩行訓練2 全身調整訓練 ファシリテーションテクニック1 ファシリテーションテクニック2 水中運動療法1 水中運動療法2 中枢神経障害1 中枢神経障害2 神経・筋障害 骨・関節障害1 骨・関節障害2 呼吸・循環障害 代謝障害(糖尿病など) 小児期障害1 小児期障害2 小児期障害3 老年期障害 スポーツ障害 高血圧・肥満 健康増進のための運動療法	
テキスト、教材、参考書		教科書:「標準理学療法学 運動療法学 総論」吉尾雅春編(医学書院)	

授業科目名	基礎運動療法実習	担当教員	富田 浩
対象学生	1学年	学期及び曜日・時限	後期・月・水曜 限
単 位	2単位	必 修	教室名
回	講義題目	内 容	
1 ~ 15		関節可動域運動 関節モビライゼーション 矯正・伸張運動 筋力増強・持久力増大訓練1 筋力増強・持久力増大訓練2 協調性訓練 神経筋再教育法 呼吸・排痰訓練 基本動作・歩行訓練1 基本動作・歩行訓練2 全身調整訓練 ファシリテーションテクニック1 ファシリテーションテクニック2 水中運動療法1 水中運動療法2 中枢神経障害1 中枢神経障害2 神経・筋障害 骨・関節障害1 骨・関節障害2 呼吸・循環障害 代謝障害(糖尿病など) 小児期障害1 小児期障害2 小児期障害3 老年期障害 スポーツ障害 高血圧・肥満 健康増進のための運動療法 実技テスト	
テキスト、教材、参考書	教科書：「標準理学療法学 運動療法学 総論」吉尾雅春編(医学書院) 参考書：「理学療法ハンドブック」細田多穂他編(協同医書)		

授業科目名	物理療法学	担当教官	目黒 力
対象学生	1学年	学期及び曜日・時限	後期・木曜 限
単 位	2単位	必 修	教室名
回	講義題目	内 容	
1		物理療法総論	
2		温熱生理学	
3		温熱療法	
4		超音波療法	
5		寒冷療法	
6		光線療法	
7		レーザー光線療法	
8		前半のまとめと後半の展開	
9		電気生理学	
10		電気刺激療法	
11		機能的電気刺激・バイオフィードバック療法	
12		牽引療法	
13		水治療法	
14		マッサージ療法	
15		疾患別プログラムの検討	
テキスト、教材、参考書		教科書 物理療法マニュアル 嶋田智明他著 医歯薬出版 参考書 標準物理療法学 物理療法学 網本 和編 医学書院 物理療法 全国 PTOT 学校養成施設連絡協議会理学療法学部 九州ブロック会(編) 神陵文庫	

授 業 科 目 名	物理療法実習	担 当 教 官	目 黒 力
対 象 学 生	2学年	学期及び曜日・時限	前期
単 位	1単位	必 修	教室名
回	講 義 題 目	内 容	
1	グループ実習	各班に分かれ以下の実習を行う。進行は各班ごとに異なる 温熱療法・寒冷療法・電気刺激療法・牽引療法・水治療法等	
2		温熱療法・寒冷療法・電気刺激療法・牽引療法・水治療法等	
3		温熱療法・寒冷療法・電気刺激療法・牽引療法・水治療法等	
4		温熱療法・寒冷療法・電気刺激療法・牽引療法・水治療法等	
5		温熱療法・寒冷療法・電気刺激療法・牽引療法・水治療法等	
6		温熱療法・寒冷療法・電気刺激療法・牽引療法・水治療法等	
7		温熱療法・寒冷療法・電気刺激療法・牽引療法・水治療法等	
8		温熱療法・寒冷療法・電気刺激療法・牽引療法・水治療法等	
9	グループ研究	各班毎にテーマ別課題を与えそれに対する実習・実験を行う グループ研究	
10		グループ研究	
11		グループ研究	
12		グループ研究	
13		グループ研究	
14		研究発表会	
15		研究発表会	
テキスト、教材、参考書	教科書 物理療法マニュアル 嶋田智明他著 医歯薬出版 参考書 標準物理療法学 物理療法学 網本 和編 医学書院 物理療法 全国 PTOT 学校養成施設連絡協議会理学療法学部 九州ブロック会(編) 神陵文庫		

授 業 科 目 名	神経系疾患理学療法	担 当 教 員	富田 浩
対 象 学 生	2学年	学期及び曜日・時限	前期
単 位	2単位	必 修	教室名
回	講 義 題 目	内 容	
1 ~ 15		脳血管障害・頭部外傷1 脳血管障害・頭部外傷2 脳血管障害・頭部外傷3 脳血管障害・頭部外傷4 脳血管障害・頭部外傷5 パーキンソニズム1 パーキンソニズム2 失調症1 失調症2 脊髄小脳変性症1 脊髄小脳変性症2 筋萎縮性側索硬化症1 筋萎縮性側索硬化症2 多発性硬化症1 多発性硬化症2 ギラン・バレー症候群1 ギラン・バレー症候群2 進行性筋ジストロフィー1 進行性筋ジストロフィー2 脳性麻痺1 脳性麻痺2 脳性麻痺3 脳性麻痺4 脳性麻痺5 脳性麻痺6 脳性麻痺7 その他の小児疾患1 その他の小児疾患2 その他の小児疾患3 その他の小児疾患4	
テキスト、教材、参考書		教科書：「標準理学療法学 運動療法学 各論」吉尾雅春編(医学書院) 参考書：「理学療法ハンドブック」細田多穂他編(協同医書)	

授 業 科 目 名	神経系疾患理学療法実習	担 当 教 官	柴田 雅祥
対 象 学 生	2学年	学期及び曜日・時限	通年
単 位	2単位	必 修	教室名
回	講 義 題 目	内 容	
1		脳血管障害の理学療法評価	
2		脳血管障害の理学療法(1)	
3		脳血管障害の理学療法(2)	
4		脳血管障害の理学療法(3)	
5		脊髄損傷の理学療法評価	
6		脊髄損傷の理学療法(1)	
7		脊髄損傷の理学療法(2)	
8		脊髄損傷の理学療法(3)	
9		パーキンソン病の理学療法評価	
10		パーキンソン病の理学療法	
11		失調症(脊髄小脳変性症等)の理学療法評価	
12		失調症(脊髄小脳変性症等)の理学療法	
13		進行性筋ジストロフィー症の理学療法評価	
14		進行性筋ジストロフィー症の理学療法	
15		中間試験	
16		筋萎縮性側索硬化症の理学療法評価	
17		筋萎縮性側索硬化症の理学療法	
18		多発性神経炎の理学療法評価	
19		多発性神経炎の理学療法	
20		多発性硬化症の理学療法評価	
21		多発性硬化症の理学療法	
22		重症筋無力症の理学療法評価	
23		重症筋無力症の理学療法	
24		後縦靭帯骨化症の理学療法評価	
25		後縦靭帯骨化症の理学療法	
26		脳性麻痺の理学療法評価	
27		脳性麻痺の理学療法(1)	
28		脳性麻痺の理学療法(2)	
29		脳性麻痺の理学療法(3)	
30		試験	
テキスト、教材、参考書		未定	

授業科目名	運動系疾患理学療法	担当教員	富田 浩
対象学生	2学年	学期及び曜日・時限	前期
単 位	2単位	必 修	教室名
回	講義題目	内 容	
1 ~ 15		骨折・脱臼1 骨折・脱臼2 靱帯損傷・半月版損傷1 靱帯損傷・半月版損傷2 腱断裂1 腱断裂2 末梢神経損傷1 末梢神経損傷2 頸肩腕症候群・五十肩1 頸肩腕症候群・五十肩2 腰痛1 腰痛2 変形性関節症1 変形性関節症2 慢性関節リウマチ1 慢性関節リウマチ2 切断1 切断2 切断3 切断4 脊髄損傷1 脊髄損傷2 脊髄損傷3 脊髄損傷4 側彎症 熱傷 乳がん 糖尿病1 糖尿病2 高齢者の運動療法	
テキスト、教材、参考書		教科書：「標準理学療法学 運動療法学 各論」吉尾雅春編(医学書院) 参考書：「理学療法ハンドブック」細田多穂他編(協同医書)	

授業科目名	運動系疾患理学療法実習	担当教員	富田 和秀
対象学生	2学年	学期及び曜日・時限	後期
単 位	1単位	必 修	教室名
回	講義題目	内 容	
1 ~ 15	<p>オリエンテーション</p> <p>肩甲帯関節の評価</p> <p>肩甲帯関節の評価</p> <p>肩関節障害の理学療法</p> <p>肩関節障害の理学療法</p> <p>肘関節の評価</p> <p>肘関節障害の理学療法</p> <p>前腕・手関節・手指の評価</p> <p>前腕・手関節・手指の理学療法</p> <p>股関節の評価</p> <p>股関節の評価</p> <p>股関節障害の理学療法</p> <p>股関節障害の理学療法</p> <p>膝関節の評価</p> <p>膝関節の評価</p> <p>膝関節障害の理学療法</p> <p>足部・足関節障害の評価</p> <p>足部・足関節障害の理学療法</p> <p>脊柱の評価</p> <p>脊柱の評価</p> <p>脊柱の評価</p> <p>骨盤関節の評価</p> <p>脊柱障害の理学療法</p> <p>脊柱障害の理学療法</p> <p>脊柱障害の理学療法</p> <p>顎関節の評価</p> <p>顎関節障害の理学療法</p> <p>慢性関節リウマチのアプローチ</p> <p>運動器疾患の評価</p> <p>運動器疾患の評価</p> <p>力学的平衡理論</p>	<p>本コースの紹介。治療の原則・概念を理解する。</p> <p>肩甲帯関節の評価(1)</p> <p>肩甲帯関節の評価(2)</p> <p>肩関節機能障害に対する訓練</p> <p>肩関節障害の代表的疾患に対する理学療法</p> <p>肘関節の評価</p> <p>肘関節障害の代表的疾患に対する理学療法</p> <p>前腕・手関節・手指の評価</p> <p>前腕・手関節・手指障害の代表的疾患に対する理学療法</p> <p>股関節の評価(1)</p> <p>股関節の評価(2)</p> <p>変形性股関節症の理学療法</p> <p>大腿骨頸部骨折の理学療法</p> <p>膝関節の評価(1)</p> <p>膝関節の評価(2)</p> <p>膝関節の代表疾患と理学療法の実際</p> <p>下腿・足関節・足部の評価</p> <p>足部・足関節の代表的疾患と理学療法の実際</p> <p>頸椎の評価</p> <p>胸椎の評価</p> <p>腰椎の評価</p> <p>骨盤関節の評価</p> <p>脊柱障害の代表的疾患に対する理学療法</p> <p>腰痛を有する症例の理学療法</p> <p>側弯症の運動療法</p> <p>顎関節の評価</p> <p>顎関節の代表的疾患に対する理学療法</p> <p>慢性関節リウマチの運動療法</p> <p>歩行評価</p> <p>姿勢評価</p> <p>力学的平衡と運動療法</p>	
テキスト、教材、参考書	<p>教科書：「標準理学療法学 運動療法学 各論」吉尾雅春編集(医学書院)</p> <p>参考書：「運動器疾患の評価」岩倉博光他監訳(医歯薬出版)</p> <p>「整形外科理学療法の理論と技術」山崎勉編集(メジカルビュー社)</p>		

授業科目名	呼吸循環系疾患理学療法	担当教官	江口 勝彦
対象学生	2学年	学期及び曜日・時限	前期
単 位	2単位	必 修	教室名
回	講義題目	内 容	
1 ~ 15	<p>コースオリエンテーション 概論 概論 概論 概論 演習 演習 概論・演習・実習 概論・演習・実習 概論・演習・実習 概論 概論 概論</p> <p>概論 概論 概論 実習 概論 概論 演習 概論 概論 概論 概論 概論 予備日 試験</p>	<p>オリエンテーション・内部障害 / 呼吸器系理学療法学 呼吸器系理学療法に関する基礎(解剖、生理、病理) 呼吸器系理学療法に関する基礎(運動学・運動生理学) 呼吸器系理学療法概論 評価 : 評価概論 評価 : 理学的検査(打診法・聴診法) 評価 : 呼吸機能検査・血液ガス 呼吸器系理学療法の手技 : 胸郭可動域拡大・呼吸介助 呼吸器系理学療法の手技 : 気道分泌物ドレナージ 呼吸器系理学療法の手技 : 呼吸筋強化・器具によるトレーニング 胸部・腹部外科における評価・理学療法 胸部内科における評価・理学療法 日常生活における呼吸管理・在宅酸素療法</p> <p>オリエンテーション・内部障害 / 循環器系理学療法学 循環器系理学療法に関する基礎(解剖、生理、病理) 運動生理学・持久性トレーニングの生理的効果 運動負荷試験(目的と方法, 装置と身体反応) 運動負荷試験と運動処方(実技) 循環器系理学療法評価(理学的所見・検査所見) 循環器系理学療法評価(心電図) 刺激伝導系・標準心電図 循環器系理学療法評価(心電図) 心電図読波演習 急性期心筋梗塞と理学療法 回復期心筋梗塞と理学療法 代謝系理学療法(糖尿病・肥満・高脂血症, 肝臓障害, 腎臓障害) 急性期理学療法の基本的理解(集中治療室・生命維持装置・リスク管理) 健康増進と理学療法</p> <p>試 験</p>	
テキスト、教材、参考書	<p>テキスト:ワークブック(サブノート)作成予定(予価¥3,000~4,000) サブテキスト:村松準:新初心者のための心電図の読み方. 新興医学出版社. 参考書: Hillegass, Sadowsky:Essential of Cardiopulmonary Physical Therapy 2nd edit.W.B.Saunders Co. Pryor,Webber:Physiotherapy for Respiratory and Cardiac Problems. 2nd edit.Churchill Livingstone. Irwin, Tecklin:Cardiopulmonary Physical Therapy. Mosby. Amundsen LR:Cardiac Rehabilitation. Churchill Livingstone. AACVPR:Guidelines for Pulmonary Rehabilitation Programs. Second Edit.(日本呼吸管理学会より訳本あり) 宮下英夫(訳):プログラムド・コースによる 図解心電図テキスト 教 材:VTR,スライド,作成資料 準備するもの:聴診器,ストップウォッチ</p>		

授業科目名	義肢装具学	担当教官	江口 勝彦
対象学生	2学年	学期及び曜日・時限	前期
単 位	2単位	必 修	教室名
回	講義題目	内 容	
1 ~ 15	<p>コースオリエンテーション 概論 概論 概論 概論 演習 演習 概論 概論 演習 実習 演習・実習 概論</p> <p>概論 概論 概論 概論 概論 演習 概論 概論 概論</p> <p>概論 概論 予備日 試験</p>	<p>オリエンテーション・義肢学, 切断と理学療法 切断, 術後ケアと断端管理, 合併症 切断の理学療法 義肢の歴史, 名称と種類, 適合とアライメント 大腿義足(股義足を含む) 大腿義足 大腿義足(膝離断用を含む) 下腿義足 下腿義足(足部を含む) ベンチアライメント・ダイナミックアライメント ベンチアライメント・ダイナミックアライメント ギプスソケット作成実習 義手</p> <p>オリエンテーション・装具学(装具学総論・歴史) 下肢装具総論 下肢装具 長下肢装具 下肢装具 短下肢装具 下肢装具 整形靴と特殊整形靴 股・膝・足部装具 脊柱・体幹装具 上肢装具・手指の装具 装具採型実習・装具作成実習 装具採型実習・装具作成実習 車椅子・座位保持装置 装具の支給体系 疾患・障害別装具適応</p> <p>試 験</p>	
テキスト、教材、参考書	<p>テキスト: 川村次郎, 他: 義肢装具学第2版. 医学書院</p> <p>サブテキスト: 日本整形外科学会, 他編: 義肢装具のチェックポイント. 医学書院 加倉井周一, 他: 新編 装具治療マニュアル. 医歯薬出版 細田多穂編: 下肢切断の理学療法. 医歯薬出版 日本義肢装具学会編: 下肢装具のバイオメカニクス. 医歯薬出版</p> <p>参考書: 日本義肢装具学会編: まんがバイオメカニクス 1, 2. 南江堂 細田多穂, 他編: 理学療法ハンドブック. 協同医書</p>		

授 業 科 目 名	義肢装具学実習	担 当 教 官	平井 正利
対 象 学 生	2学年	学期及び曜日・時限	後期
単 位	1単位	必 修	教室名
回	講 義 題 目	内 容	
1 ~ 15		義肢の歴史 切断の原因 切断の部位 切断手技と断端管理 義肢の名称と種類 義肢処方と選択因子 義肢の力学 義手の構成要素と各パーツの特徴1 義手の構成要素と各パーツの特徴2 義手の適合 下腿義足の構成要素と各パーツの特徴 義足の適合とアライメント 下腿義足 義足の適合とアライメント 足部義足 義足の適合とアライメント サイム義足 正常歩行と下腿義足歩行 義足の装着訓練 下腿義足実習1 下腿義足実習2 大腿義足の構成要素と各パーツの特徴 義足の適合とアライメント 股義足 義足の適合とアライメント 大腿義足 義足の適合とアライメント 膝義足 正常歩行と大腿義足歩行 大腿義足実習1 大腿義足実習2 義足と断端のケア 企業見学 予備日 予備日 予備日	
テキスト、教材、参考書		義肢学 (医歯薬出版)	

授 業 科 目 名	日常生活活動学	担 当 教 員	柴田 雅祥
対 象 学 生	2学年	学期及び曜日・時限	前期
単 位	2単位	必 修	教室名
回	講 義 題 目	内 容	
1		日常生活活動の概要	
2		日常生活活動の評価	
3		食事	
4		排泄	
5		入浴	
6		更衣・整容	
7		起居移動(1)	
8		起居移動(2)	
9		歩行補助具	
10		歩行	
11		車椅子	
12		トランスファー	
13		ホームエバリュエーション・住宅改造	
14		コミュニケーション	
15		試験	
テキスト、教材、参考書		教科書：「日常生活活動(動作)」土屋弘吉他編集(医歯薬出版)	

授 業 科 目 名	日常生活活動学実習	担 当 教 員	柴田 雅祥
対 象 学 生	2学年	学期及び曜日・時限	後期
単 位	1単位	必 修	教室名
回	講 義 題 目	内 容	
1		日常生活活動の評価	
2		脳血管障害(1)	
3		脳血管障害(2)	
4		脳血管障害(3)	
5		脊髄損傷(1)	
6		脊髄損傷(2)	
7		慢性関節リウマチ	
8		切断	
9		神経筋疾患(1)	
10		神経筋疾患(2)	
11		脳性麻痺・重症心身障害	
12		呼吸機能障害・人工呼吸器使用者	
13		高齢者	
14		変形性関節疾患等	
15		試験	
テキスト、教材、参考書		参考書:「日常生活活動(動作)」土屋弘吉他編集(医歯薬出版) 「ADLとその周辺」伊藤利之他編集(医学書院)	

授業科目名	地域理学療法学	担当教官	江口 勝彦
対象学生	3学年	学期及び曜日・時限	後期
単 位	2単位	必 修	教室名
回	講義題目	内 容	
1 ~ 15	<p>コースオリエンテーション</p> <p>概説 概説 概説 概説 概説 演習 概説 演習 概説 概説 概説</p> <p>総論 概説 概説 概説 概説 演習 演習 演習 演習 概説 概説 概説 予備日 試験</p>	<p>オリエンテーション</p> <p>地域論(生活, 障害者, 高齢者そして子供)</p> <p>本邦の保健医療福祉の動向と地域理学療法論の背景</p> <p>本邦の保健医療福祉の動向と地域理学療法論の背景</p> <p>関連職種とチームワーク論 保健医療職</p> <p>関連職種とチームワーク論 福祉行政, 教育, その他</p> <p>地域理学療法における IT 論: 理学療法連絡票</p> <p>地域理学療法における IT 論: 理学療法連絡票 演習</p> <p>ホームエバリュエーション論</p> <p>ホームエバリュエーション論 演習</p> <p>法律・制度論 (身体障害者福祉法, 社会保障・資源)</p> <p>法律・制度論 (高齢者介護保険法, 社会保障・資源)</p> <p>介護保険・ケアプランと理学療法論</p> <p>事業計画と実践(評価・専門性)</p> <p>施設と在宅論</p> <p>施設と在宅論</p> <p>群馬県の地域理学療法</p> <p>地域研究論</p> <p>地域研究論</p> <p>地域研究論</p> <p>地域研究論</p> <p>地域理学療法の実際・現状・展望: 在宅訪問</p> <p>地域理学療法の実際・現状・展望: 身障施設</p> <p>地域理学療法の実際・現状・展望: 小児施設</p> <p>地域理学療法の実際・現状・展望: 高齢者施設</p> <p>試験</p>	
テキスト、教材、参考書	<p>テキスト; ワークブック(サブノート)作成予定(予価¥3,000~4,000)</p> <p>参考書; その都度紹介</p> <p>その他作成資料配布</p>		

授 業 科 目 名	生活環境論	担 当 教 官	目黒 力
対 象 学 生	3学年	学期及び曜日・時限	前期
単 位	2単位	必 修	教室名
回	講 義 題 目	内 容	
1		生活と環境と障害者	
2		QOL	
3		経済的環境	
4		行政・制度的環境	
5		居住環境	
6		居住環境	
7		居住環境	
8		福祉・リハビリテーション機器	
9		社会生活用具・機器・設備	
10		都市交通環境	
11		都市交通環境	
12		都市交通環境演習	
13		都市交通環境演習	
14		総論	
15		予備	
テキスト、教材、参考書		教科書：生活環境論 第3版 木村哲彦(監) 医歯薬出版	

授業科目名	スポーツ障害理学療法学	担当教官	村井 貞夫
対象学生	3学年	学期及び曜日・時限	前期
単 位	2単位	選 択	教室名
回	講義題目	内 容	
1 ~ 15		<p>第1章アスレチック・リハビリテーション</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. アスレチック・リハビリテーションの定義 2. アスレチック・リハビリテーションの沿革 3. アスレチック・リハビリテーションの分類 <ol style="list-style-type: none"> a アスレチック・リハビリテーションの運動療法 b アスレチック・リハビリテーションの物理療法 温熱療法、寒冷療法 4. アスレチック・リハビリテーションの治療 <ul style="list-style-type: none"> 頭部外傷・障害リハビリテーション 頸部外傷・障害リハビリテーション 肩関節外傷・障害リハビリテーション 上肢外傷・障害リハビリテーション 体幹外傷・障害リハビリテーション 骨盤外傷・障害リハビリテーション 下肢部外傷・障害リハビリテーション <ol style="list-style-type: none"> a 大腿部 b 膝関節 c 下腿部 e 足関節 <p>アスレチック・リハビリテーションの実技</p> <p>第2章アスレチック・マッサージ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. アスレチック・マッサージの定義 2. アスレチック・マッサージの沿革 3. アスレチック・マッサージの分類 4. アスレチック・マッサージの適応と禁忌 5. 施術の注意 6. アスレチック・マッサージの実技 <ul style="list-style-type: none"> 手技の分類とその方法 <ul style="list-style-type: none"> 軽擦法 揉捏法 圧迫法 叩打法 振戦法 伸展法 その他 <p>第3章アスレチック・テーピング</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. アスレチック・テーピングの定義 2. アスレチック・テーピングの分類 3. 実技・目的 <ul style="list-style-type: none"> 応急処置 予防 再発予防 <p>脊椎損傷の理学療法</p> <ul style="list-style-type: none"> はじめに 定義 ベッドサイド訓練 マット訓練 水治療法 車椅子訓練 歩行 ADL 訓練 	
テキスト、教材、参考書			

授 業 科 目 名	在宅ケア理学療法学	担 当 教 官	平石 恒男
対 象 学 生	3学年	学期及び曜日・時限	後期
単 位	2単位	選 択	教室名
回	講 義 題 目	内 容	
1		地域理学療法概念	
2		保健、医療、福祉の動向	
3		老人保健法による機能訓練事業	
4		介護保険と理学療法	
5		訪問リハビリテーション	
6		通所リハビリテーション	
7		高齢者の理学療法評価	
8		家屋改造(実例を通して)	
9		車椅子の選択	
10		歩行補助具の選択(杖、歩行器)	
11		障害者用自動車	
12		福祉用具の選択	
13		在宅リハ見学	
14		在宅リハ見学	
15		在宅リハ見学	
テキスト、教材、参考書		参考書:「地域理学療法」 医歯薬出版	

授 業 科 目 名	言語治療学	担 当 教 官	谷 哲夫
対 象 学 生	3 学年	学期及び曜日・時限	後期
単 位	2 単位	選 択	教室名
回	講 義 題 目	内 容	
		* 本年度開講せず	
テキスト、教材、参考書			

授 業 科 目 名	看 護 学	担 当 教 官	高木タカ子	
対 象 学 生	3学年	学 期 及 び 曜 日 ・ 時 限	後 期	
単 位	2単位	選 択	教 室 名	
回	講 義 題 目	内 容		
1	看護と看護学	1. 看護を学ぶにあたって		
2		2. 看護活動と業務内容		
3		3. 保助看法による業務独占		
		4. 学問・知識・専門とは		
4	看護の対象	1. 健康とは (グループワーク) 生命現象について 生物・心理・社会的バランス		
5				
6		2. 人間とは (グループワーク) 生活の自立と社会的自立 社会と環境		
7		個人・個別性		
8		個人・個別性		
9				
10		3. 保健		
11		4. 健康障害と快復		
12		看護論	1. 看護の存在	
13			2. 看護の本質と機能	
14	3. 実践の倫理			
15	まとめ			
テキスト、教材、参考書		テキストは特に定めない。必要があるときには参考書を紹介する。		

授 業 科 目 名	福祉機器概論	担 当 教 官	目黒 力
対 象 学 生	3学年	学期及び曜日・時限	後期
単 位	2単位	選 択	教室名
回	講 義 題 目	内 容	
1		福祉機器概論とは	
2		工学的基礎	
3		工学的基礎	
4		福祉機器	
5		入力装置・デバイス	
6		福祉情報	
7		移乗・移動機器	
8		車椅子	
9		自助具・介助機器	
10		視聴覚言語障害に対する福祉機器	
11		コミュニケーション機器	
12		姿勢保持装置	
13		住居環境と福祉機器	
14		福祉のまちづくり	
15		社会制度と交付制度	
テキスト、教材、参考書		教科書 バリアフリーのための福祉技術入門 足立芳寛(監) オーム社	

授 業 科 目 名	運動療法特論	担 当 教 官	柳澤 健
対 象 学 生	3 学年	学期及び曜日・時限	前期
単 位	2 単位	選 択	教室名
回	講 義 題 目	内 容	
1 ~ 15		固有受容性神経筋促通法(PNF) PNF の理論1 PNF の理論 2 PNF の理論3 PNF の理論4 基本パターン1 - 上肢 - 基本パターン2 - 上肢 - 基本パターン3 - 上肢 - 基本パターン4 - 上肢 - 基本パターン5 - 上肢 - 基本パターン6 - 上肢 - 基本パターン7 - 下肢 - 基本パターン8 - 下肢 - 基本パターン9 - 下肢 - 基本パターン10 - 下肢 - 基本パターン11 - 下肢 - 基本パターン12 - 下肢 - 特殊テクニック1 特殊テクニック2 肩甲骨のパターン 骨盤のパターン 体幹のパターン1 体幹のパターン2 歩行1 歩行2 応用1 応用2 応用3 応用4 実技テスト1 実技テスト2	
テキスト、教材、参考書		教科書:「PNF マニュアル」柳澤 健他著(南江堂) 参考書:「理学療法ハンドブック」細田多穂他編(協同医書)	